

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		中村 英詞		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	芸術専門課程		声優・演劇科		平成29(2017)年度		-		令和 2(2020)年度	
学科の目的	声優・俳優如何にかかわらず息の長い役者として活躍できる人材育成と社会人として恥ずかしくない立ち振る舞いの出来る人材育成を目的としている。									
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学者等)	舞台機構調整技能士、照明技術者技能認定、色彩検定、足場の組立て等作業従事者特別教育 中途退学者 9名(4.46%)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,700 単位時間	395 単位時間	単位時間	3,875 単位時間	単位時間	単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
240 人	170 人		3 人		2 %					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 94 人									
	■就職希望者数(D) : 92 人									
	■就職者数(E) : 92 人									
	■地元就職者数(F) : 1 人									
	■就職率(E/D) : 100 %									
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 1 %									
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 98 %									
	■進学者数 : 2 人									
	■その他									
	(令和 6 年度卒業者に関する令和7年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 株式会社文学座 文学座附属演劇研究所、劇団N L T、有限会社劇団俳優座 演技研究所、有限会社扉座 劇団扉座研究所、アソビシステム株式会社、有限会社えりオフィス、ネクシード株式会社										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL									
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					4,270 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					620 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間					
うち必修授業時数					1,700 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					240 単位時間					
(B: 単位数による算定)										
総授業時数					単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数					単位					
うち必修授業時数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					10 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					3 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					1 人				
	計					14 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					8 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
声優・演劇分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。また声優・演劇分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

声優・演劇分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。また声優・演劇分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
百田 英生	一般社団法人 デジタルボイスパレット	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
西田絵里	株式会社 ケンユウオフィス	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
前田 大輔	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
吉村 智樹	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 声優・演劇科 科長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
平野 真悟	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 声優・演劇科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
			—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年9月30日 16:30～18:00

第2回 令和8年3月18日 16:30～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

時代の変容とともに必要とされる個人の内容が変化してきている中での求められる人材とその教育について。具体的には授業構成における日本舞踊や殺陣などの必要性和その有無について。AIが画期的な進歩を遂げる中での必要性和差別化。某大手事務所の養成所では受講学生が日舞などの授業意義を見いだせず授業運営がままならない状況が顕著に見受けられ対処にもつながっていったため授業構成から外す傾向が生まれつつある状況を聞き取る

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学外現場との差異をなくすために現場で活躍されている講師の派遣や柔軟な対応を取っていただける企業の選定を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

声優・俳優の現場で起こるディレクションや要求、求められるものに対し即応するための技術取得や創造性を養うための授業内容等について

授業実施を行っている。

インプロ、エチュードを用いた即応性、創造性さらにはアクティブラーニングを活用したコミュニケーション能力の向上を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作/修了制作	舞台公演を制作しこれまで学んできた成果を発表することを目的とする	文学座、青年座、扉座、文化座など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 教員が使えるカウンセリング技術 基礎編

連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会

期間: 令和7年6月2日

対象: 教職員

内容 発達障害、グレーゾーンの学生が増える中での教員が使えるカウンセリング技術

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 就職等進路に関するセミナー

連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会

期間: 令和7年8月28日

対象: 教職員

内容 多様化する学生の就職指導について～発達障害・グレーゾーン学生の就職活動～

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 全劇研2025in東京 日常を生きるドラマの力

連携企業等: 日本演劇教育連盟

期間: 令和7年8月9日

対象: 教職員

内容 子供たちの心の扉をノックする 演劇的手法実践講座

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 0

連携企業等: 0

期間: 0

対象: 0

内容 0

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。

以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。

- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多く作り、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在在するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	地域関連/会計専門委員
壺阪 敏秀	株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼報道局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイティブ企業等委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ/デザイン企業等委員
吉崎 彰	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
田山 順一	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>
公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 声優・演劇科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネススキルⅠ	芸能界を含む、社会において必要な一般常識やマナーを習得し、人間力を養います。	1・前	15	1	○			○		○		
2	○			ビジネススキルⅡ		1・後	15	1	○			○		○		
3			○	演劇概論Ⅰ	演劇史をはじめ、演技を学ぶ上で必要な知識を学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
4			○	演劇概論Ⅱ		1・後	15	1	○			○			○	
5	○			演技研究Ⅰ	映画、テレビ、舞台など、様々な作品に触れながら演技を研究実践します。	1・前	60	4	○			○		○		
6	○			演技研究Ⅱ		1・後	40	2	○			○		○		
7	○			基礎演技Ⅰ	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・前	105	3			○	○			○	
8	○			基礎演技Ⅱ		1・後	70	2			○	○				○
9	○			基礎演技Ⅲ		1・前	105	3			○	○				○
10	○			基礎演技Ⅳ		1・後	70	2			○	○				○
11	○			舞踊Ⅰ	日本舞踊を通じて和装の着付けから所作、礼儀作法を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
12	○			舞踊Ⅱ		1・後	40	1			○	○				○

13			○	ダンスⅠ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指します。	1・前	60	2			○	○			○	
14			○	ダンスⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
15			○	ダンスⅢ		1・前	60	2			○	○			○	
16			○	ダンスⅣ		1・後	40	1			○	○			○	
17			○	アクションⅠ	殺陣・アクションを学ぶための体力作りから基礎技術までを学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
18			○	アクションⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
19	○			ヴォーカルⅠ	様々な種のヴォーカルに取り組み、演技者に必要な音感・リズム感・表現力を養います。	1・前	60	2			○	○			○	
20	○			ヴォーカルⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
21			○	ワークショップⅠ	声優・俳優・タレントに必要なスキルをワークショップで学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
22			○	ワークショップⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
23			○	ワークショップⅢ		1・前	60	2			○	○			○	
24			○	ワークショップⅣ		1・後	40	1			○	○			○	
25	○			舞台総合実習	1年次の集大成として修了公演を行います。	1・後	120	4			○	○			○	
26	○			キャリアデザインⅠ	声優・俳優・タレント業界の知識を学びます。また、進路に関しての情報交換をはじめ、セルフプロデュース、オーディション対策などを行います。	2・前	15	1	○			○		○		
27	○			キャリアデザインⅡ		2・後	15	1	○			○		○		

28			○	作品研究Ⅰ	映画、テレビ、舞台など、多くの作品に触れ、様々な角度から研究します。また、映画・テレビ・演劇などの業界人による講演を通じて知識を深めます。	2・前	60	4	○			○		○		
29			○	作品研究Ⅱ		2・後	40	2	○			○		○		
30			○	舞台実習Ⅰ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・前	105	3			○	○			○	
31			○	舞台実習Ⅱ		2・後	70	2			○	○			○	
32			○	舞台実習Ⅲ		2・前	105	3			○	○			○	
33			○	舞台実習Ⅳ		2・後	70	2			○	○			○	
34			○	アフレコⅠ	アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学びます。	2・前	105	3			○	○			○	○
35			○	アフレコⅡ		2・後	70	2			○	○			○	○
36			○	声優演技Ⅰ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます。	2・前	105	3			○	○			○	
37			○	声優演技Ⅱ		2・後	70	2			○	○			○	
38			○	ナレーションⅠ	ナレーションやリーディングなど声の表現力を学びます。	2・前	60	2			○	○			○	○
39			○	ナレーションⅡ		2・後	40	1			○	○			○	○
40			○	アナウンスⅠ	アナウンスを通じて伝えることの技術を学びます。	2・前	60	2			○	○			○	○
41			○	アナウンスⅡ		2・後	40	1			○	○			○	○
42			○	応用演技Ⅰ	演技者としての表現能力の向上を図るとと	2・前	60	2			○	○			○	

43			○	応用演技Ⅱ	もに応用力を学びます。	2・後	40	1			○	○			○	
44			○	舞踊Ⅲ	日本舞踊を通じて品や礼節を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	
45			○	舞踊Ⅳ		2・後	40	1			○	○			○	
46			○	ダンスⅤ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	
47			○	ダンスⅥ		2・後	40	1			○	○			○	
48			○	ダンスⅦ		2・前	60	2			○	○			○	
49			○	ダンスⅧ		2・後	40	1			○	○			○	
50			○	アクションⅢ	殺陣・アクションを芝居に取り入れた表現技術を学び、さらには立ち回りの演出プランを研究実践します。	2・前	60	2			○	○			○	
51			○	アクションⅣ		2・後	40	1			○	○			○	
52			○	ヴォーカルⅢ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・前	60	2			○	○			○	
53			○	ヴォーカルⅣ		2・後	40	1			○	○			○	
54			○	ヴォーカルⅤ		2・前	60	2			○	○			○	
55			○	ヴォーカルⅥ		2・後	40	1			○	○			○	
56			○	ミュージカル実習Ⅰ	ヴォーカルを中心に、演技・ダンスを総合的に取り入れた表現を学びます。	2・前	105	3			○	○			○	
57			○	ミュージカル実習Ⅱ		2・後	70	2			○	○			○	

58			○	演劇表現演習 I	現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
59			○	演劇表現演習 II		2・後	40	1			○	○			○	
60			○	企画制作演習 I	観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。	2・後	105	3	○			○			○	
61			○	企画制作演習 II		2・前後	70	2			○	○			○	
62			○	シナリオ I	シナリオ・戯曲・台本を、声を出して読む力を学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
63			○	シナリオ II		2・後	40	1			○	○			○	
64	○			卒業制作	卒業制作作品に出演します。（他学科制作のアニメ・CG・ゲーム・映像・イベントほかを含む）	2・後	120	4			○	○			○	○
65			○	卒業研究	個々に研究テーマを設定し、卒業論文にまとめ発表します。	2・後	120	8			○	○			○	○
66			○	インターンシップ A	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外での出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・通	240	8			○		○		○	
67			○	インターンシップ B		2・通	120	4			○		○		○	
68			○	インターンシップ C		2・通	60	2			○		○		○	
合計						68	科目			4270 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目950時間(34単位)および選択科目750時間(22単位)以上取得し、合計1700時間(56単位)以上取得すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：1年次は必修800時間、選択科目100時間以上履修すること 2年次は必修150時間、選択科目650時間以上履修すること		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。